

ご近所のお医者さん

□
672
□

はるのひ内科院長 斎藤篤史さん 一豊中市

慢性腎臓病を知っていますか？

先日、ある患者さんから相談を受けました。「主治医から腎臓がかなり悪くなってきたから、『透析の準備をしましょう』と言われました。でも自覚症状もないし、そんなに腎臓が悪いとは思えません。本当に透析は必要なんですか？」

この患者さんは慢性腎臓病で治療中。とはいえ、普段通りの生活ができており元気に過ごしている。なのに急に透析！と言われても……と焦って当院を受診されました。

透析導入になる前に

慢性腎臓病は日本人の成人の約8人に1人がかかる病気で、かなり進行するまで症状が出にくい病気です。そのため、体がダルい▽食欲がない▽吐き気▽むくみ——などの症状が出てきた時は、すでに末期腎不全になっている

かもしれません。その場合は、腎代替療法といわれる血液透析や腹膜透析、腎移植が必要となります。この患者さんには、持参された検査の推移などから「残念ながら近いうちに透析導入が避けられない状態です」と説明しました。多くの慢性腎臓病の患者さんは、透析という治療を受け入れることに時間がかかります。

▽心不全▽心筋梗塞▽脳卒中▽骨粗しょう症——などを引き起こします。慢性腎臓病をコントロールすることが、これらの合併症を予防する事にもつながります。薬物治療だけではなく、食事療法▽適度な運動▽禁煙——なども大切な治療です。

腎機能は、血液検査でチェックできることはご存知ですか？

血液検査
のクレア
チニン値
(Cr)
や、推算

糸球体ろ過量(eGFR)で確認することができます。慢性腎臓病は早期発見・早期治療により、将来の腎代替療法を防いだり、できるだけ先送りしたりすることができます。そのためには定期健診を受けましょう。まずは自身の腎機能を知るところから始め、腎機能の低下があれば、かかりつけ医や腎臓の専門医に相談してください。

また慢性腎臓病は、高血圧▽貧血▽